

三和小学校	重点課題推進校	教科一般・学習評価の充実
-------	---------	--------------

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 児童の「やってみタイム」の明確化

学習指導要領をもとに児童のゴールの姿を具体的に設定し、その児童の姿からつけたい力がつたかどうかを検証することで授業改善を図った。

- ①児童の姿から見取り、検証の場として「やってみタイム」を設定し必ず実施した。
- ②児童の具体の姿として明確にし、評価項目を児童の記述で指導案に位置付けた。

(2) 重点2 「やってみタイム」の姿を引き出すための手立て

どの子も学習の土台にのせるために児童のつまずきを想定し「やってみタイム」に向かって意欲が高まるよう手立てを設定した。

- ①研究授業で使用し、ICTの効果的な活用について学習する場を設定した。
- ②授業整理会で児童の具体的な姿である記述や成果物等から、学習評価の検証を行い改善に努めた。

2 取組の検証

検証の項目		前期	後期
児童	授業で、自分で考え自分から書いている	88%	88%
	自分から「やってみタイム」に取り組んでいる	86%	78%
教員	「やってみタイムに」に取り組む、効果的な学習活動にしている	96%	90%
	基礎的基本的な学びを定着させるために、学習の取り組みを実施している（やってみタイム）	100%	100%

学校評価より肯定的評価は上記の結果であった。

- ・児童アンケートの「授業で、自分で考え自分から書いている」の項目では、D評価（ほとんどあてはまらない）であった児童が前期5%から後期3%へと伸びが見られた。
- ・教員アンケートより、「やってみタイム」に取り組んでいるものの、ねらいが達成されたかを日々の授業で検証するまでに至っていない。

3 成果と課題

成果

- ・ゴールの姿を児童の言葉で具体的に設定したことで、つけたい力を明確にした授業づくりへと転換し、児童の姿から見取る力が向上した。
- ・ICTの効果的な活用によって個に合った指導を行い、どの子も学びの土台にのせるための手立てを講じたことで、児童の学習意欲につなげることができた。

課題

- ・「やってみタイム」で確実に資質・能力の育成がされているのかを見取るために多様な評価の方法についてさらに改善を図る。
- ・ねらいと評価が一体化するよう児童の実態に合わせて「やってみタイム」の問題を吟味する。